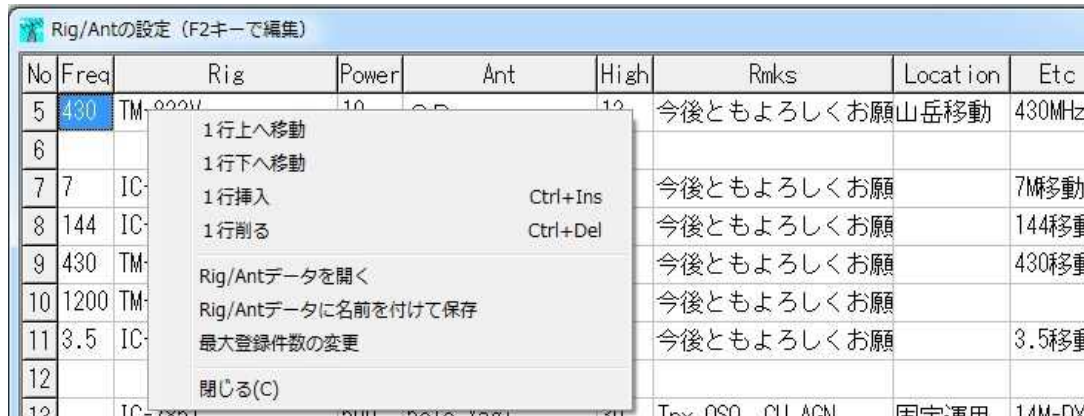


QSLカードに印刷するデータのうち、バンドごとに自局のリグ/リグの終段入力（または空中線電力）/アンテナ/アンテナ高/備考/運用場所/その他を設定しておきます。

ここで設定した内容は、**RIGANT.DAT**というファイル名のテキストファイルで保存されます。  
これは、INIファイルと同じ形式ですので、知識があればエディタで直接修正ができます。

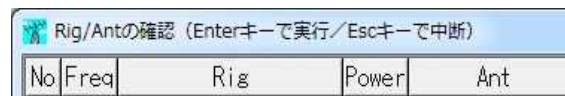


[QSLカード印刷ダイアログで、Rig/Ant確認ありがチェックされていない場合](#)

Rig/Antを上から順に探し出して、最初に該当するバンドがあったらそのRig/Antを印刷します。  
この場合、該当するバンドが無かったら、たまたま偶然のRig/Antを印刷します。( ^\_^ )

[QSLカード印刷ダイアログで、Rig/Ant確認ありがチェックされている場合](#)

印刷時にこのウインドウが開き、選択します。



Escキーを押すと中断します。

Enterキーで該当する行を選択します。0～9の数字キーでも直接選択することができます。

[QSL定義ファイルの命令で#Rig#8のように直接行番号が指定されていれば、バンドに関係なく、この8番目のリグやアンテナが印刷されます。](#)

※注 この数字が1未満またはRig/Antデータの上限を超えている場合は、無視されます。

[QSL定義ファイルの命令で#Rig=7M移動のようにEtc欄の文字列が指定されていれば、バンドに関係なく、このウインドウのEtc欄に7M移動という文字列が入っている行のリグやアンテナが印刷されます。](#)

### QSOデータと関連付けるには・・・

[QSOデータの Remarks 1 か 2 にRig#10のように文字列が入力されていれば、バンドに関係なく、この10番目のリグやアンテナが印刷されます。](#)

[QSOデータの Remarks 1 か 2 にRig=7M移動のように文字列が入力されていれば、バンドに関係なく、このウインドウのEtc欄に7M移動とい](#)

図のように、**右クリック**したときのポップアップメニューで、Rig/Antデータを記憶したファイル (**RIGANT.DAT**) のフォルダ変更や、Rig/Antデータの最大登録件数の変更などができます。

ポップアップメニューでは、1行移動や1行挿入・削除ができますが、行番号が変わってしまいますのでご注意ください。(※注を参照)

**RIGANT.DAT**の登録件数の上限は999件、又はファイルサイズ64 Kバイトのいずれか小さいほうです。

リグやアンテナ等の修正は、次のいずれかの方法となります。

直接文字を入力する。このとき既存の文字列は消えてしまうので、文字列を入れ直す。

F2キーを押してから、矢印キーで修正したい文字を選び、修正する。

マウスで修正したい文字を直接指定し、文字を修正する。